

# 土方巽・暗黒舞踏における非統合の身体～ 1970年代の身体像とメソッド

早稲田大学 稲田奈緒美

## 1. 研究目的と方法

土方巽が創始した暗黒舞踏における、1960年代と1970年代の変化は広く知られている。1960年代、土方は暴力、倒錯、犯罪など反社会的、反道徳的なテーマを用い、ダダ、ハプニングなどの手法を借用して、前衛的な舞踊作品を作った。一方、1970年代以降は、東北や前近代的なモチーフ、がに股、腰を折るなどの“型”を多用したため、日本、前近代への回帰とみなされてきた。その表象イメージは、土方自身の発言や文章、写真集『鎌鼬』等によって流布され、固定された。これらの変化について論者は、舞踊作品の動きとそれを生成する身体メカニズム、また文章の文体に注目して論じてきた<sup>1) 2)</sup>。本研究では、その結果得られた、「統合/非統合の身体」という概念を再考し、その身体イメージとメソッドを考察する。対象は、土方巽の舞踏譜、言説、関係者へのインタビュー等であり、ダンサーの身体内部を洞察しながら、その知覚と操作方法に焦点を当てる。

## 2. 考察と結果

### 2-1 1960年代：統合的な身体

1960年代における反舞踏的、日常的な動きや即興の導入は、特定の舞踊メソッドに替わって、日常生活の中で規律化、合理化された動きのメカニズムを用いたと考えることができる。このような、舞踊の様式や日常行為のために各部を統合していく身体を、“統合的な身体”と名付ける。そのイメージは、明瞭な輪郭を持ち、西洋近代の解剖学に従って分節される部分から構成され、目的に向かって合理的、効率的に操作される身体である。つまり、1960年代は既存の舞踊様式や規範を解体した反舞踊作品ではあったが、身体は従来どおりのメカニズムを保ち続けたのである。

### 2-2 1970年代：非統合の身体へ

1970年代の膝を曲げ、腰を折る低い姿勢は、バレエ等の西洋舞踊と対比され、観客や批評家の本質主義的解釈導いた。このような“型”が、日本で生まれた暗黒舞踏のオリジナリティと正統性の象徴、根拠とみなされてきたのである。

だが、実践的な視点によってこれらの“型”を考察すると、単にある造形や動きが目的ではなく、身体に大きな負荷をかけ、通常の動きのメカニズムを制限する、または無効にするものであることが理解できる。

### 2-3 非統合の身体のためのメソッド

しかし、舞踊とは一般的に、解体された身体メカニズムを、稽古によって規律化、習慣化することで再び統合し、様式化していくものである。その固定化、様式化を避けるためには、統合された身体メカニズムを、常に解体し続けなければならない。そのために土方は、独自の舞踏譜を利用した。舞踏譜には美術雑誌等から切り抜かれた絵画が貼り付けられ、言葉が書き加えられている。土方は稽古や打ち合わせでそれを弟子やスタッフに見せながら、イメージとその質感を伝える言葉を浴びせかけたのである。

例えば、ある絵画の視覚イメージから言葉を連想し、その聴覚イメージから同音異義語へと飛躍し、ある感覚の記憶を思い出して、身体の触覚イメージへ繋げるというように、次々とイメージ、感覚、記憶、欲望を接続させる。特に土方は、語彙も文法も解体しながら言葉を用いるため、言葉と同様に、身体分節と構造も解体されつつ接続され、時空を超えて拡張していくイメージを持つ。このようなメソッドによって、身体の動き、フォルム、質感を固定することなく、身体各部をバラバラに動かし、次々と変容していく身体を、“非統合の身体”と呼ぶ。

## 3. 結論

以上の考察から、以下の3点が導かれる。

- i) 1960年代の暗黒舞踏は、既存の舞踊様式や規範、作品の全体性を解体する反舞踊作品を実現したが、規律化、合理化された、“統合的な身体”を解体するものではなかった。
- ii) 一方、1970年代は舞踊の様式に収まり、作品の全体性も確保したが、身体はバラバラに動きながら変容していく、“非統合の身体”であった。
- iii) 舞踊や日常の統合された身体を解体し、かつ固定化を避けて、“非統合の身体”を生成するために、土方は舞踏譜によるメソッドを考案した。それは、視覚、聴覚、触覚などのイメージ、感覚、記憶、欲望が次々と飛躍し、接続することで、変容し、拡張していく身体である。

## 参考文献

- 1) 稲田奈緒美, 2001「土方巽の舞踏と文章～形式と文体による舞踏解説の試み」、『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第46輯, p.15-24
  - 2) 稲田奈緒美, 2004「1970年代暗黒舞踏の技法研究 見えない技法を巡って」、『演劇研究センター紀要』Ⅱ, p.49-59
- (注) 本発表は2007年6月、Le Centre National de la Danseで開催された、“Re-Thinking Practice and Theory”, SDHS and CORD Joint Conferenceにおける発表、“Non Integrated body of Tatsumi Hijikata’s Ankoku-butoh in 1970s”を元に再構成したものである。